



佐盲PTA会報

—Pica pica—

佐盲PTA会報 研修だより

＜発行＞佐賀県立盲学校PTA

＜発行日＞令和6年10月30日

秋冷の候、会員の皆様には、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、第3回PTA研修を10月18日に実施しました。公益財団法人九州盲導犬協会（福岡県糸島市東702番地1）への施設見学です。盲導犬を視覚障害者へ無償で貸与するための活動をされています。大変有意義な研修でしたので、今回参加できなかった皆さんにも、お知らせし、情報共有したいと思います。

常時、20～40頭の犬を訓練され、年間7～8頭の盲導犬に育成されています。訓練期間は、1歳から1年間で、実際に盲導犬として活動するのは、2歳から10歳の期間です。現在、盲導犬を待っている待機者は20名ほどで、1～2年待ちだそうです。佐賀県では4頭が活躍中です。

訓練は、犬が好きなことを探して楽しませ、訓練が楽しいと感じさせ、意欲的に学べるように工夫するそうです。実際に、訓練士さんの股をくぐったり、遊具を噛んで遊んだりする様子も見せていただきました。ほめて、うれしい気持ちにさせる活動を積み重ねることで、犬が、自分で判断して障害物を避けられるようにしていくそうです。

1頭の盲導犬を育成するには500万円ほどかかるそうですが、この施設の運営は、その9割が寄附によって支えられているそうです。本校の皆さんからいただいた募金（5100円）と寄付金をお渡ししました。この活動は、みなさんの愛で支えられているとのことでした。



参加者所感

- ・盲導犬の訓練の話は、人間にも共通していて、興味深かったです。入店拒否をされたり、盲導犬がかわいそうと思われていたり、正しい理解と啓発がまだまだ必要だと実感しました。ほとんどが寄附で成り立っていることも、財源の安定のために何ができるか考えさせられました。
- ・どのようにして盲導犬が「ゴー」や「コーナー」などの言葉を理解して行くのか疑問に思っていたが、褒めながら愛情を持って育てておられる様子に接し、子育てと何ら変わらないと感動しました。
- ・盲導犬の育成の話を聞きながら、育てるということに関して、子育ても根本は同じなのだと感じました。センターの方々は、盲導犬候補犬に愛情深く、根気強く、向き合っておられる印象を受けました。子犬の頃はエサが欲しいと吠えますが、吠えているときにはエサを与えず吠えなくなるまで待ってエサを与えると、吠えなければエサがもらえるのだと学習し無駄に吠えることがなくなるとのことでした。

佐盲PTA会報「Pica pica」について

この名称は、校章に佐賀県鳥であるカササギが飛んでいる所があるところから、「カササギの学名」を取り入れました。「光（ピカピカ輝く人生を送って欲しい）」の意味もこめてPica pica（ピカピカ）としています。